



玄々堂グループ広報誌 - あたたかい医療をみんなの手で -

げんげんどう

特集 当院の糖尿病診療

2022.4 No. 90

- ② 入社式 新人看護師研修
- ③ 講演会 診療報酬改定
- ⑥ 足のトラブルについて
- ⑦ 退任医師ご挨拶 永年勤続表彰
- ⑧ 乳腺外来の紹介



表紙の絵：呼吸器内科部長 野口医師が描いた油絵です。寒い冬の間、真っ白な雪に覆われる札幌パークホテルの日本庭園は春になるとツツジ、ハナミズキ、ライラックなどをはじめ色とりどりの花が一齐に咲き誇ります。日本の歴代の天皇陛下や皇太子さまもご宿泊の折には好んで散策された中島公園のほとりにある静かできれいな庭園です。

【入社式開催】

総務課主任 永沼剛

4月1日、当院大会議室にて入社式が執り行われました。

入社式には30名の職員が参加し、池田院長から辞令が交付されました。新入職員を代表して、看護師の清水麻実子さんが誓いの言葉を述べ、医療従事者としての決意を新たにしました。その後3日間、中途入職者も参加し、オリエンテーションを行いました。理念・基本方針、安全対策および感染対策、接遇などの研修を行い、職員は真剣な眼差しを向けて聞き入っていました。新入職員との出会いを大切にして、地域医療に貢献できるようにこれからみんなで頑張っていきたいと思えます。



30名の新入職員とともに



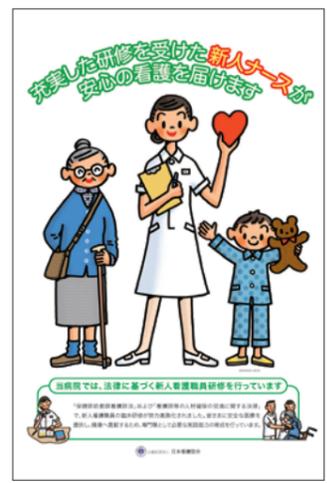
新入職員代表挨拶

2022年度 新入職員名簿		2022年4月1日現在	
看護師			
清水 麻実子	梅木 凛佳子	井上 莉奈	遠藤 遥
中條 真希	佐々木 香歩	清水 清	あゆみ 方里子
徳島 干聖	古川 未夢	遠藤 穂谷	中江 典子
村口 さくら	沢里 直哉	中江 穂谷	中江 典子
中ノ神 みか	鶴田 凌平	中江 穂谷	中江 典子
渡部 風花	吉武 希志	中江 穂谷	中江 典子
林 沙季	平野 志	中江 穂谷	中江 典子
管理栄養士			
松川 晃明			
理学療法士			
鹿山 淳平	高梨 葉奈	三瓶 智哉	
佐藤 后華			
臨床工学技士			
青山 夏実			
クラーク			
高橋 春美	五十嵐 美紀		
事務員			
佐藤 年成	中村 翔	守 由知歌	

コロナ禍の新人看護師の入职時研修

看護部教育担当部長 加藤 久美子

昨年度は、コロナ禍で臨床実習がほぼできなかった新人を迎えました。そこで、4月は若葉マークを名札に貼り、研修先の先輩の後ろにピタリと付いて周る「シャド



新人看護師研修制度



ヒナペンギンカンファレンス(新人同士の学びの共有会)の様子

ウイング」という方法を取りました。現場を大きく捉え、得てきた知識と実践を結びつける所から始めたのです。研修での学びを新人同士共有し、少し自信をつけて配属先に向かうことができました。今はそれぞれの部署で、チームの一員としてもしっかり働いています。今年度も「シャドウイング」を取り入れます！

健康都市宣言のまち さみつ医療講演会にて

2月7日、保健福祉センターにて、総合腎臓病センター長である大崎慎一 副院長により「あなたの腎臓大丈夫？」と題して講演会が行われました。コロナ禍ではありませんが、定員を半分に開催され、君津木更津圏域医療連携の取り組みである「腎臓病地域連携パス」、見逃されがちな「尿蛋白」、専門医では何を診てくれるのか、予防のために今からできることについて、わかりやすくお話されました。



講演は君津市のホームページからYouTubeで聞くことができます。



第21回 病院研究発表会開催

3月3日に大会議室にて40名の参加とオンラインで100名以上の参加というハイブリット形式で研究発表会が開催されました。指定講演は一般社団法人、日本快眠生活研究所の所長であります國井修先生に「疲れを吹き飛ばす睡眠」と題して体内時



第3回 「きみさらづフィットケアフェス」開催

計を整える睡眠の大切さについて講演いただきました。研究発表では各部署から11演題の研究発表が行われ、「看護師のスキんテアの予防に対する知識・行動・意識について」透析患者のスキんテアを予防するために私たちができるとは「」を発表した本院透析室の西脇千亜希看護師が優秀賞1位に選ばれました。

糖尿病の足病変に対する知識とスキル習得、下肢切断の撲滅に向けて、地域医療の発展に寄与することを目的に、1月27日に第3回「きみさらづフィットケアフェス」が開催されました。当院からは「足を救うための患者・スタッフ教育の重要性と現状の課題」と題して、ICU病棟のフットケア指導士、松林由紀看護師が発表しました。



2022年度 診療報酬改定

今年度は2年に一度の診療報酬改定が行われる年です。この改定の内容によっては、患者さんの医療機関への受診の仕方や病院の経営方針にも影響をおよぼします。今回の改定はどう

医事課長 山口伸行



防火戸の訓練



消火器の訓練

春季消防訓練は、2020年度以降に入職した職員を対象に、感染対策を考慮しつつ3月10日と11日の2日に分けて、防火戸と消火器の取り扱いについて実施されました。

春季消防訓練実施

だったのでしょうか？医療機関にとっては厳しい内容と捉える意見もあるようですが、反面、自院の地域での役割をしっかりと果たし、質の高い医療を提供できる医療機関は高い評価を得られるようになっていきます。主な評価のポイントとしては次のような点が挙げられます。

- 地域、他職種、院内など様々な分野で連携体制が取れていること
- 新興感染症への対策と体制整備
- データヘルス改革、デジタル改革への対応(オンラインの活用)

時代の変化や地域のニーズに対応できる柔軟性が求められる点が注目されます。

当院の糖尿病診療

特集

糖尿病治療の目的は患者さんの健康維持を支えることです

玄々堂君津病院 副院長 荻野 良郎

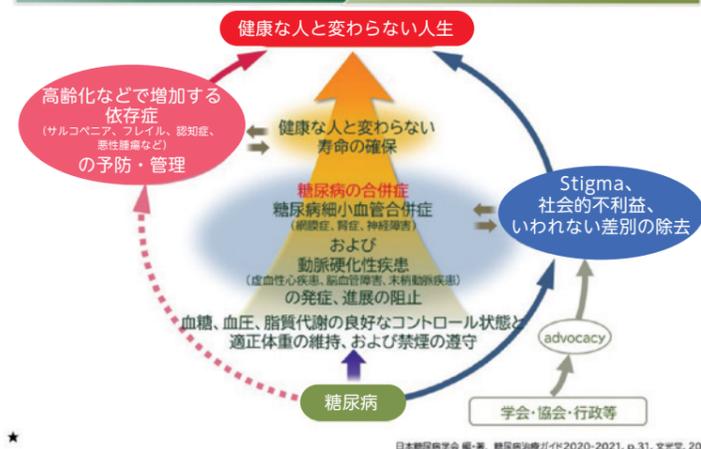
糖尿病を患うと神経障害(両足の先端がピリピリ、ジンジンするなど)、網膜症(眼底出血、視力障害)、腎障害(尿蛋白、腎老廃物排せつ障害)などの最小血管合併症や、心臓病・脳血管・下肢動脈疾患などの大血管合併症、更に癌合併、認知症、骨粗鬆症、歯科疾患、フレイル(虚弱)など様々な合併症が出現しやすくなり健康な生活を障害します。

このため良好な血糖コントロールが求められます。血糖コントロールの目標は、年齢、身体的、精神的状態で患者さんごとに違い、現在までに全世界で蓄積された臨床検討がその根拠となつていきます。不十分或いは過度すぎる厳格なコントロールは健康の維持に障害となる場合もあります。私達スタッフは患者さん各々の状況を考慮し目標値を提案し、加療しています。従来は血糖コントロールが大黒柱的

な存在でしたが、最近では心血管・腎障害を予防或いは改善する薬剤が使用可能となつていきます。このような臓器保護作用を持つ薬剤を追い込まれる前に服用していただくことより、血糖コントロールと合併症発症や進展予防が可能な状況になりました。糖尿病治療薬の素晴らしさは非糖尿病患者さんに2020年秋以降心不全、腎不全に使用の認可があり、今年更にその使用可能薬剤が広がるようになっていくことから理解できると思われれます。糖尿病の患者さんは臓器障害が発症する前からこの様な薬剤を使用することが許されています。さらに他の糖尿病薬にも認知機能や筋力の改善が期待できる可能性があり期待は広がっています。更にテクノロジーの進歩にも目をみはるものがあります。このような日進月歩の治療薬・検査機器などを糖尿病チーム全体(医師、

看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師、理学療法士、クラーク)で患者さんに提供してゆきたいと思つてます。

糖尿病治療の目標



日本糖尿病学会 編・著、糖尿病診療ガイド2020-2021、p.31、文光堂、2020

糖尿病認定看護師の活動

外来主任 糖尿病認定看護師 町田 洋子

昨年から糖尿病認定看護師として、活動しています、外来看護師の町田洋子です。

私が糖尿病外来に配属になって10年の間、たくさんのお患者さんと関わってきました。ライフスタイルの変化の中でも、患者さんは一生懸命糖尿病と向き合っており、治療に取り組んでいました。私たち看護師と一緒に悩み、考え、喜び合ったこともありました。

それは、患者さん自身だけでなく、ご家族も同様です。糖尿病認定看護師には、「その人らしさを支えるパートナーとしての役割」というのがあります。患者さんが自宅でやってきた血糖改善のケアへの努力を一緒に称賛し、支援を継続することが私たち看護師の役目であると思います。医師の治療方針と患者さんの糖尿病治療への思い・取り組みが一緒に進んで行くように、サポートしていきたいと思っています。

当院では「リブレ」という1日の血糖曲線を知ることが出来る治療も行っています。自己血糖測定に代わりとして、内服治療の方には栄養指導と一緒に2週間検査する方法もあります。ご興味のある方、また治療の不安や糖尿病について知りたい方、どんなことでも構いません。糖尿病外来受診時はいつでも声を掛けてください。



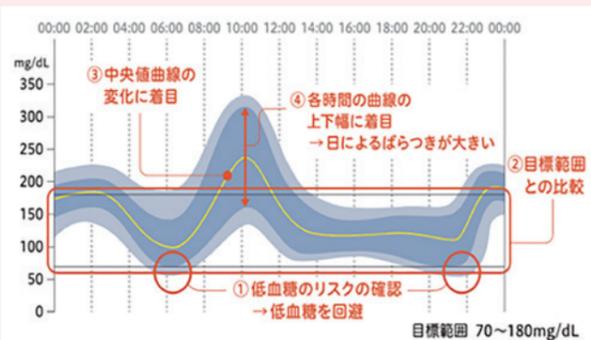
リブレ



荻野副院長と町田糖尿病認定看護師 糖尿病外来にて

り、結果としてHbA1cが低下した方もいらっしゃいます。インスリン治療を導入されたい方、外来診察時にご希望をお伝えください。

自己血糖測定の補佐となる、リブレフリースタイルは2週間装着しながら、リーダー(機械)をかざすたびにグルコース値がわかるタイプです。保険の適応があり、入眠中の低血糖の確認や運動前・旅行中も簡単にグルコース値がわかるため安心して過ごすことができます。測定値には↑の印が出るため、グルコース値の今後の変動を知ることができます。



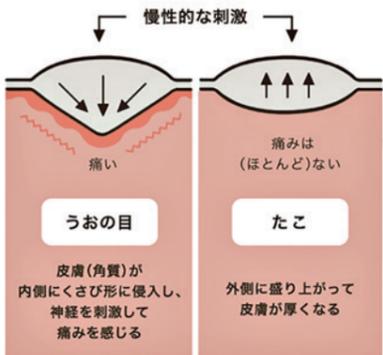
目標範囲 70~180mg/dL

足のトラブルについて

私たちの足は、立つ・歩くときに働くだけでなく、身体を常に支えるという役割があります。しかし、足は様々な要因でトラブルを起こしやすい場所でもあります。例えば、糖尿病による神経障害や関節リウマチ等による足の変形、外反母趾、扁平足、そして、足に合わない靴の着用等による圧迫です。そのような人は足の裏に胼胝(たこ)、鶏眼(うおの目)、潰瘍等のトラブルが起こる人が多くみられます。今回はこのような足のトラブルについてお話したいと思います。

○胼胝・鶏眼・潰瘍について

胼胝(べんち)とは、足の皮膚の一部分に体重がかかり、圧迫や摩擦等の刺激が集中することで、その部分の皮膚が硬くなる状態です。胼胝を放置すると症状が悪化し、強い痛みを伴う鶏眼(けいがん)やうおの目(うおの目)に発展してしまいます。また、潰瘍とは足の皮膚が炎症を起こし、表面がえぐれたような傷ができることです。原因は糖尿病による足の神経障害(痺れ・感覚麻痺)、血流の悪化などの合併症が代表的です。



○足のアーチについて

足にはアーチという構造があり、歩行時や運動時に体を支え衝撃を吸収する仕組みになっています。足の変形等でアーチがつぶれてしまうと衝撃を吸収できず、胼胝や鶏眼ができやすくなってしまいます。足のアーチは、足のトラブル予防のためにも大切です。



○足のトラブルを悪化させないためには

大切なことは「足をよく見ること」です。自分の足をよく見ることが異変の早期発見・治療につながります。また、当院ではフットケア外来を行っておりますので、足のトラブルが気になる方は外来受診をご検討ください。フットケア外来では、医師の診察と看護師によるフットケア(爪切りや

角質の削り等)を行っています。また、足に傷ができやすく予防が必要な方には、医師の指示のもと理学療法士による運動指導(ストレッチ等)や、足専門の技師装具士による足の状態に合った靴や中敷きの作製(保険適応)等も行っています。

リハビリテーション科
科長代理 フットケア指導士 森 陽介

退任

退任医師のご挨拶

昨年度末をもって退任された小川勇一医師からのご挨拶です。新天地での活躍をご期待申し上げます。



玄々堂君津病院に勤務して思ったこと

小川 勇一 医師

2019年4月に都内の大学病院から異動して、一番良かったと思ったことは、他職種の方々と交流ができたことですね。大学病院時代は職種間をこえたつながりが皆無でした。病棟診療で多少看護師のお世話になる程度で、技師さん、薬剤部や栄養科、リハビリ科の方々と話す機会すらありませんでした。しかし、玄々堂では積極的に診療に携わってくれていて、勉強になりましたし、心強かったです。外来診療でもクラークさんのおかげで、スムーズな診療が行えて、心より感謝しています。

1つ入職後からずっと気になっていたのが、正確な時刻を刻む時計が少ない(ない?)ことですね。院内の時計は電波時計のほずだと聞いてびっくりしましたが、そのゆったりとしたところも玄々堂の良いところなのかもしれませんね。

3年間お世話になり、ありがとうございます。なるべく迷惑をかけないよう、不快な思いをさせないよう努力してきましたつもりですが、嫌な思いをされた方々、ご容赦ください。

これからも温かい玄々堂君津病院であって欲しいと思います。皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。また皆様にお会いできる日を楽しみにしています！

永年勤続30年表彰「Mサイズの白衣」

地域連携室 副看護部長 鳥飼紀子

Mサイズの白衣がぶかぶかだった新人時代からあつという間の30余年、遊びに仕事に子育てにと本当に充実した時間を過ごすことができました。

患者さんに真摯に向き合う先生の姿、凛とした先輩の背中、沢山の厳しさで温かさを教えて下さいました。「患者さんの為に」という思いは今も変わることなく玄々堂の風土となっています。一緒に子育てをしてくれた保育所の先生、忘れられない患者さん、支えてくれる仲間たち、全ての方に感謝しながら残りの看護師人生も玄々堂とともに進んでいきたいと思えます。少しでも大きくなつた白衣を着ながら...

表彰種別	氏名	職種
10年	工藤 真司	医師
	佐藤 和弘	医師
	西山 成二	医師
	佐藤 茜	看護師
	松林 由紀	看護師
	一木 美咲	看護師
	浜田 美幸	看護助手
	高橋 絵美	看護助手
	永沼 剛	事務員
	平山 有佳里	事務員
子安 知里	介護福祉士	

2022年度 永年勤続表彰受賞者

表彰種別	氏名	職種
40年	伊藤 ひろ子	事務員
30年	鳥飼 紀子	看護師
	関根 明	放射線技師
	平野 直美	事務員

表彰種別	氏名	職種
20年	阿部 環	看護師
	藤平 郁美	看護師
	石井 ルミ	看護師
	玉坂 寿美子	看護師
	砂川 亮平	看護師
	松本 美香	准看護師
	村上 真紀子	看護師
	宮沢 美紀	薬剤師
	山田 奈美恵	臨床検査技師
	小泉 美佐子	管理栄養士
	中島 雅子	MSW
	藤平 雅紀	臨床工学技士
	桐谷 早苗	臨床工学技士
	菊池 陽子	クラーク
	菅原 梨江子	看護助手

『当院の専門外来』 ↳ 乳腺外来の紹介

当院の専門外来を紹介いたします。今回は乳腺外来です。

乳腺外来 崎山 香奈 医師

乳腺外来では、検診または人間ドックなどで要精査となった方の精密検査を行っています。また、乳房にしこりや皮膚のひきつれなどがある方、乳頭からの分泌物や痛みなどがある方の検査も実施しています。気になる症状がある方は、気のせいと思わずに、また、先延ばしせず、いつでもご受診ください。

乳腺外来のお知らせ

毎週土曜日の診療です

第1・3 崎山医師(女性)

第2・4 田辺医師

乳腺に関するご相談をお受けしています

当院ではマンモグラフィ、乳房超音波検査(エコー)、超音波ガイド下生検(細胞診および組織診)を実施いたします。検査の結果、追加検査が必要な場合には周辺の連携医療機関に紹介させていただきます。

日本の統計では、女性が生涯に乳がんにかかる割合はおよそ9人に1人で、この割合は今でも増え続けています。乳がんは、早期発見で根治を目指すことができる病気です。

当院では、外来に加え、市検診および人間ドックでの検査も実施しています。マンモグラフィ読影は二人の医師によるダブルチェック体制です。自治体検診、職域検診、人間ドックなどで定期的な乳がん検診を是非ご継続ください。

外来、検診、人間ドック共に地域の皆様の医療に貢献できるように行なってまいります。

マンモグラフィ装置が新しくなりました!



従来使用していた装置に比べ画像がより鮮明になり、検査所要時間が短くなりました。

また、圧迫による痛みが軽減されました。

※ 検査は女性技師が対応致します。

新型コロナウイルスワクチン

モデルナ社製へ変更のお知らせ

新型コロナウイルスワクチン3回目の追加接種が始まりました。君津市の方は、君津市新型コロナウイルスコールセンターで予約を受け付けています。君津市以外の方は、当院で受付をしています。ホームページで受付期間をご確認ください。4月12日からファイザー社製からモデルナ社製に変更となりました。

玄々堂君津病院 各お問い合わせ番号 月曜日～土曜日(日曜・祝日は除く)

病院代表
0439-52-2366

外来診療予約
0439-52-7068
診療予約・予約変更

地域連携室
0439-52-2457
医療機関からの患者さんのご紹介

総合腎臓病センター
0439-52-2750
腎臓病関連・腎臓病コーディネーター



玄々堂グループ広報誌

げんげんどう

第90号 2022年4月28日発行

発行者:玄々堂君津病院
発行責任者:玄々堂君津病院副院長 大崎慎一
企画・編集:玄々堂君津病院 新聞委員会

医療法人 新都市医療研究会「君津」会

玄々堂君津病院

〒299-1144 千葉県君津市東坂田4-7-20

電話 0439-52-2366(代表)

URL <http://www.gengendo.jp>

